
IS vs AC (予告)

HAL-HAL

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS vs AC （予告）

【Nコード】

N0537W

【作者名】

HAL-HAL

【あらすじ】

夏休みを偲ぶ&アーマードコアフォーアンサークリア記念！

兵器最強に名乗りを上げるISに待ったが掛かった！
世界を二分して、壮絶な戦いが今、始まる！（嘘）

CAUTION

本編は有りません。これは予告です。

しかも本編をやるかどうか分からない予告です。
やれと言われてもやらない可能性がありますので、過度な期待はせ
ずにお楽しみください。

（前書き）

アーマードコアフォーアンサーをクリアしたので書いてみました。

え？ 言ってたのと内容が違う？ 小さい事は気にするなよ。

—— 10年前、ソレは現れた。

「……いやあ、流石だねちーちゃん！ あれだけの数のミサイルと戦闘機を落とすなんてさ！」

「凄いな、これなら世界が変わるぞ」

「やだなあ、束さんはちーちゃんが喜んでくれたらそれで万事オーケーだよ！」

先程白騎士として世界に衝撃を与えた織斑千冬は、篠ノ之束と合流するため、地上ギリギリを駆けていた。

彼女の顔には達成感と、肩の荷が下りた安堵感が浮かんでいる。

「オーケーちーちゃん、もうすぐ合りゅ——え？」

「どうした……ッ!？」

オペレーターとして千冬をサポートしている、篠ノ之束の様子が通信越しに変化した。

明らかに狼狽している。

何が起こったのか説明を求めようとした千冬だったが、それより少し早く機体のアラートが鳴り響いた。

「ちーちゃん！ 今すぐそこから離れて！ 何かがそっちに向かっ

てる！」

「何！？」

束からアンノウン接近の報告を受け、レーダーと目視で周囲を見渡す。

視界が180度回る頃、果たしてそれは現れた。

キイイイイイイイン

戦闘機のような音を響かせ、しかし戦闘機と違い大地を疾走する人影がある。

いや、人ではない。人のような丸みを帯びておらず、レーシングカーのような角ばったデザインである。

しかしレーシングカーでもない。それには脚が付いていて手も頭も付いている。

それは群青色の、人型の機械だった。

「束、何だあれは？」

「ロボット……だね？　でもあれ脆そうだね」

束と通信している間にも千冬に近づいてくる、仮称ロボット。

そして千冬から400メートル程の距離で停止した。

大きさは思ったほど大きくはない。2メートル弱といった所だ。ISを纏った人間とほとんど変わらない。

千冬はすぐさま戦闘態勢に移行し、ロボットの動きを注視した。しかしロボットは停止したきりで、動く気配が無い。

「……………」

かと言って千冬は、戦闘態勢を解く訳にもいかなかった。
ロボットを見れば嫌でも目に入ってしまう物――

両腕のライフルがロボットに対する千冬の警戒心を高めている。

『あー、あー、ごきげんよう』

千冬の頭の中に声が響いてきた。おそらく通信だろう。
声は高さや質から女の物と判断できる。

「何だ？」

『つれないなあ。……さっきのあれ、見せてもらったよ。いやあ凄
いねえ！ どう？ 有名人になった感想は』

「知るか。それよりお前は何者だ？」

声の主は親しげに話しかけてくるが、千冬にとっては全く聞き覚え
の無い声だ。

千冬は女の声を見殺して話を進める。

『私かい？ そうだねえ……【レイレナードの亡霊】なんてどうか
な？』

「レイレナードの亡霊……だと？ ふざけるな！ 貴様は何者だ！」

『聞きたい？ じゃあ条件があるんだけどなあ』

「……さつさと言え」

勿体ぶった話の進め方に業を煮やしたのか、千冬は声のトーンを落として言った。

通信越しでも殺気は伝わったのか、喉を鳴らす音がかすかに聞こえた。

『今キミの目の前にいるコと戦ってくれない?』

「何!?!」

女の条件に千冬は目を見開いた。あのロボットはどうやら女の物らしい。

「あれはお前が作ったのか!? 一体何だあれは!?!」

『知りたい? じゃあ教えてあげる。あれは人型戦闘兵器、アーマード・コア
インフィニット・ストロブス A.C。
ISと違って、ソレは戦闘を前提に組み上げた”兵器”だよ』

「戦闘を前提に……だと!? 戦争でも始める気か、お前は!」

『うーん、私自身はそんな気はさらさら無いよ。ただ、欲しい人がいれば生産しても良いかな』

「私から一つ条件を追加だ。ソレを倒したらお前の居場所を吐け。すぐに殺しに行く」

『あはっ、こわい。でも本気でやってくれるならノープロブレムだよ』

女の承諾が得られるや否や、千冬は荷電粒子砲を呼び出して引き金を引いた。

強力な破壊の奔流がロボットに迫る。そして当たる直前――

ロボットはヒトならざる疾さで横にスライドし、危なげなく回避した。

『危ないなあ、不意打ちなんて。武士の風上にも置けないよ』

「ふん。勝てばいいんだ。体裁なんぞ気にしてられるか」

『なりふり構わず……って事かな？ でもそんな不意打ちじゃ倒せないよ。私の”アリーヤ”は』

彼女がそう言った直後、アリーヤのカメラアイが光を帯びた。

「はあっ、はあっ……倒した、ぞ。早く、居場所を、吐け」

30分後、千冬の目の前には鉄塊寸前となったアリーヤが転がっていた。

『いやあ、流石――！ その――はもはやバケモノ――』

女の声にノイズが混じる。

「おい！ 何を言って――」

『この子——話し——ね。壊れ——なくなる——然だよ』

ブツン。女との通信は途絶えた。

『ゴメンちーちゃん。電波妨害されてて——』

「いや、いい。それよりこの鉄塊はどうすればいい？」

『調べるから持ってきてくれる？』

「了解した」

千冬は通信を終えると、物言わぬ鉄塊を抱え、合流ポイントに向かった。

この時千冬は感じていた。コレが後にISに匹敵する力となるであろう事を……。

—— 10年後。千冬の予感は的中する。

「……まさか、またその面を拝む事になるとはな。——
白い閃光」

「……………」

「織斑先生、お手数をお掛けして申し訳ありません」

突如目の前に現れた一組の男女。まだ大人とは言えない彼らはかつて単機で一つの企業を壊滅させた経歴を持つ。彼らが壊滅させた企業の名は――”レイレナード”

「運命を感じずにはいられない……か」

運命の歯車が、音を立てて回り始めた。

――白い閃光が、そのベールを脱ぐ。

『こちらホワイト・グリント。オペレーターです。セシリア・オルコットさん、よろしくお願いします』

「あら、ISではありませんの？ そんな機械で……ってホワイト・グリント！？ じゃああの話は……」

――その疾さは、戦場を駆け一筋の閃光。

「なっ！？ あ、当たらない！？」

「これが……単機で企業を壊滅させた実力か」

――閃光を匿うIS学園に迫る恐怖。

「待って下さい！ 高速で接近する熱源…… ACです！」

「何ッ！？」

『あれは私たちの敵です。私たちが対処します』

「俺も手伝う！」

『なっ！？ 危険です！ 今すぐ退いて下さい！』

—— 10年の時を経て蘇る亡霊。

『やつほー。久しぶりだねえ』

「お前は…… 10年前の！？」

『10年！ 私は10年待った！ もう十分だよ。始めさせてもらうよ……』 クローズ・プラン”を』

「クローズ…… プラン？」

—— そして、人類史上最も過酷な戦いが始まる。

「お前は——」

「君は——」

「あなたは――」

「アンタは――」

「貴様は――」

『最後まで、生き残れるか』

（後書き）

とりあえずACの設定。（フォーアンサー準拠）

正式名称は「アーマード・コア」。

操作方式から「アサルト・コントローラ」という別称もある。

全高2mほどだが、その分早さと小回りは良く利く。

しかもISCコアのようにブラックボックスが無いため、自由に生産できる。

頭部、コア、腕部、脚部と細分化でき、自由にアセンブルできる。

特筆すべきはその操作方法。

着脱式のISと違い、遠隔操作の方式を取っている。

この方式により、ISと違って操縦者が身体的ダメージを負う事は全くと言っていいほど無い。

操縦者はヘッドギアを着け、操縦桿型コントローラを両手に持って操作する。

ISに操縦適性があるように、ACにも操縦適性がある。

それはAMS適性と呼ばれ、高めれば高いほど思い通りに機体が動き、機体を通して見る視界もクリアになる。

欠点としては、ISと違って量子化が出来ない。

AC操縦中は操縦者が無防備になる。

操縦者のAMS適性によつては自滅する可能性がある。 e t c . . .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0537w/>

IS vs AC (予告)

2011年10月8日15時33分発行